

## モクレン

体育館に向かう通路の脇、見事な「モクレン」が、一気に花開きましたね。そこで、今日は、「モクレン」にまつわる話です。皆さんは、「モクレン」によく似た「コブシ」という花をご存じですか？そもそも、「モクレン」も「コブシ」も同じ科に属する花なので、咲いてみるまでは、なかなか見分けがつかないというのです。でも、咲いてみれば、一目瞭然。「モクレン」の花は大振りで、皆上を向いて咲いています。対して、「コブシ」の花は、小ぶりで、咲く方向もバラバラです。さて、私の興味は、この「花」よりも、実は、その「つぼみ」に向いています。以前「今日のシライ中」で紹介されていた「ネコヤナギ」もそうですが、「モクレン」や、「ブシ」のつぼみも、艶やかな絹の光沢をもつ「毛」でおおわれています。あの、独特の「つぼみ」には、植物のどんな戦略があるのだろうか？気になった私が、まず調べたのは、…もちろん、大好き「日本植物生理学会」のQ&Aコーナーです。例えば、「モクレン」のように、はっきり目にするのできる、「毛」に覆われたものもありますが、実は、多くの植物が、同じように細かい「毛」で覆われているのです。例えば、ミント、などのハーブ類。例えばトマトやナス。言われてみれば、確かに細かい「毛」が生えています。これらの「毛」は、「トライコーム」と呼ばれています。では、この「トライコーム」には、どんな役割があるのでしょうか？植物によって、違いはありますが、例えば、「ナス科の植物」。その「トライコーム」には、揮発性物質が含まれており、芋虫等が葉をかじると、その揮発性物質が空中に拡散します。すると、その物質に引き寄せられ、芋虫を捕食する昆虫がやってくるというのです。なんと、動けない、逃げられない植物たちが、身を守るため、昆虫を上手に操るのです。（以前紹介したキャベツなどにもみられる現象です。）さて、このような、積極的な戦略以外にも、「トライコーム」には、寒さから身を守る、水分の蒸発を防ぐ、昆虫の食害から身を守る等々、いろいろな役割があると書かれていました。見た目にも美しい「モクレンのつぼみ」ですが、無意味に「毛」をまとするような無駄を植物は致しません。ちなみに、「モクレン」のつぼみは、日のよく当たる南側が大きく膨らみ、その先端は、全て「北」を指すということです。このことから、「モクレン」は、別名「コンパスプラント」とも呼ばれています。

昨日、春の陽気に誘われて、「アリ」たちが忙しく巣穴を出入りする姿を目にしました。「お帰り！」冬眠から目覚めた「虫」たちが、そろそろ動き始める頃合いです。冬越しした、「フタホシテントウムシ」の愛らしい姿も目撃しました！にぎやかな「春」まで、もう少し。あちらこちらで探してみませんか？

